

Q4： 学習指導案作りで、留意することはどのようなことですか。

学習指導案作り

授業者の熟考と
教員同士の議論

学習指導案は、授業の学習内容等を、授業者がどのように解釈し、どのように子どもたちに学習させるかについて論理的に示したものです。各教科の学習指導要領解説を熟読し、子どもたちの実態を踏まえて、ねらいを達成するためにはどのように指導することが効果的かを明らかにして、記述することになります。

作成に当たっては、授業者が熟考して作成することになりますが、授業者の授業構想をもとに、教材の解釈や捉え方、実態を踏まえた授業展開等について、教員同士が様々な議論をして練り合うことは、質の高い授業実践に大切なことです。

〈「学習指導案作り」のチェックリスト〉

- この単元で、授業者として伝えたいこと（教材の解釈、子どもの実態、展開計画など）を具体的で分かりやすく記述していますか。
- 教科指導の面からと子どもの実態の面からの両方を踏まえた記述をしていますか。
- 発問、指示、板書、評価など、教師の具体的な働きかけを具体的に構想していますか。

目標の設定

教科の特性を踏
まえて

目標の書き方は、①学習指導要領から評価の観点ごとに記述する場合と②評価の観点を含んだ文章で記述する場合の2通りが考えられます。

①については、「塩谷南那須の教育」（平成23年度P.90～）で例示しました。

②については、「新学習指導要領に基づく評価規準設定のための参考資料（小学校）（中学校）」（県教委H23.6, H23.12）に例示されています。

①で作成した場合

- 1 単元名
- 2 単元の目標
- 3 単元の指導について…

②で作成した場合

- 1 単元名
- 2 単元の目標
- 3 単元の評価規準
- 4 単元の指導について…

指導案作成に当たっては、教科の特性を踏まえて①、②を選択して記述することになります。

単元の指導について

根拠、系統性、
指導の手立てを
具体的に

学級の実態を踏
まえて

教材観には、単元設定の根拠、指導の系統性、指導の手立てについて明記します。また、児童生徒の実態については、学級全体の様子のみでなく、指導内容に照らした児童生徒の実態が記述されることが大切になります。

〈「単元観」、「児童生徒の実態」チェックリスト〉

- 学習指導要領との関連が示されていますか。
- 単元（題材）の学習内容に迫る手順と方法を明確に記述していますか。
- 単元（題材）で身に付けさせたい力に対する実態把握がなされていますか。
- 単元（題材）のどこで、どのようなつまずきとなって現れるかの予想と連動させて構想していますか。

本時の指導

指導上の留意点
を詳しく記述

本時の指導では、ねらいの達成に向けての具体的な手立てが効果的かどうかを見る場面を示し、検証する方法（子どもの言動、教師の助言内容、教材の有効性など）を記述し、予想した子どもの反応を見ながら指導していくことが大切になります。

〈「本時の指導」チェックリスト〉

- 教師の意図、子どもの反応の予想とそれに対応した教師の手立てが順序立てて記述されていますか。
- 「おおむね満足できる状況に達していない児童生徒」を「おおむね満足と判断される状況」にするための手立て、「おおむね満足と判断される状況にある児童生徒」を「十分満足できると判断される状況」にするための手立てなどが、具体的に考えられていますか。
- 子どものつまずきに対応した教師の手立てが複数示されていますか。
- ねらいの達成度をどのような方法で評価するのか具体的に記述していますか。



細やかに練られた学習指導案は、子どもたちの分かる授業につながります。「熟考」と「論議」を大切に授業作りを期待します。